

製品名: c-Myb (リン酸化 Ser532) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04477**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | IHC, ICC/IF, ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | リン酸化 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | MYB |
| 別名 | MYB; Transcriptional activator Myb; Proto-oncogene c-Myb |
| 遺伝子 ID | 4602.0 |
| SwissProt ID | P10242 |
| 免疫原 | 抗血清は、Ser532 のリン酸化部位周辺のヒト Myb 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 496-545 |

背景

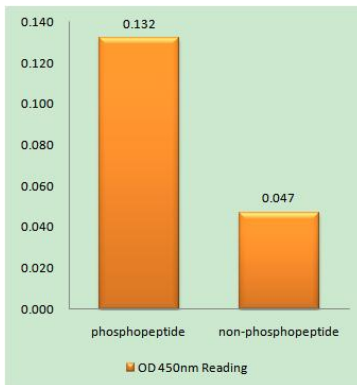
この遺伝子は、転写調節因子として機能する 3つの HTH DNA 結合ドメインを持つタンパク質をコードしています。このタンパク質

は造血調節において重要な役割を果たしています。この遺伝子は、白血病やリンパ腫において異常発現、再編成、または転座を起こす可能性があり、がん遺伝子であると考えられています。選択的スプライシングによって複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq提供、2016年1月],ドメイン: N末端 DNA 結合ドメイン、中央に位置する転写活性化ドメイン、および転写抑制に関与する C末端ドメインの3つのドメインで構成されています。機能: 転写活性化因子。5'-YAAC[GT]G-3'配列を特異的に認識する DNA 結合タンパク質。造血前駆細胞の増殖と分化の制御に重要な役割を果たす。PTM:NLKによって複数の部位がリン酸化され、プロテアソーム分解を誘導する。PTM:ユビキチン化され、SIAH1によって媒介され、その後プロテアソーム分解を誘導する。類似性:3つの HTH myb 型 DNA 結合ドメインを含む。サブユニット:MYBBP1A に結合し、HIPK2、MAF、NLK と相互作用する。、

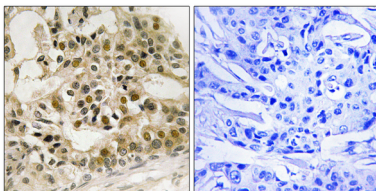
研究分野

アクト_PKB

画像データ



Myb (リン酸化 Ser532) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



Myb (リン酸化 Ser532) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。